

5

システム演習

この章では、実際にシステムを使用して演習して行きます。使用するシステムはオープンソースのERP(Enterprise Resource Planning) システム iDempiere (アイデンピエレ) です。

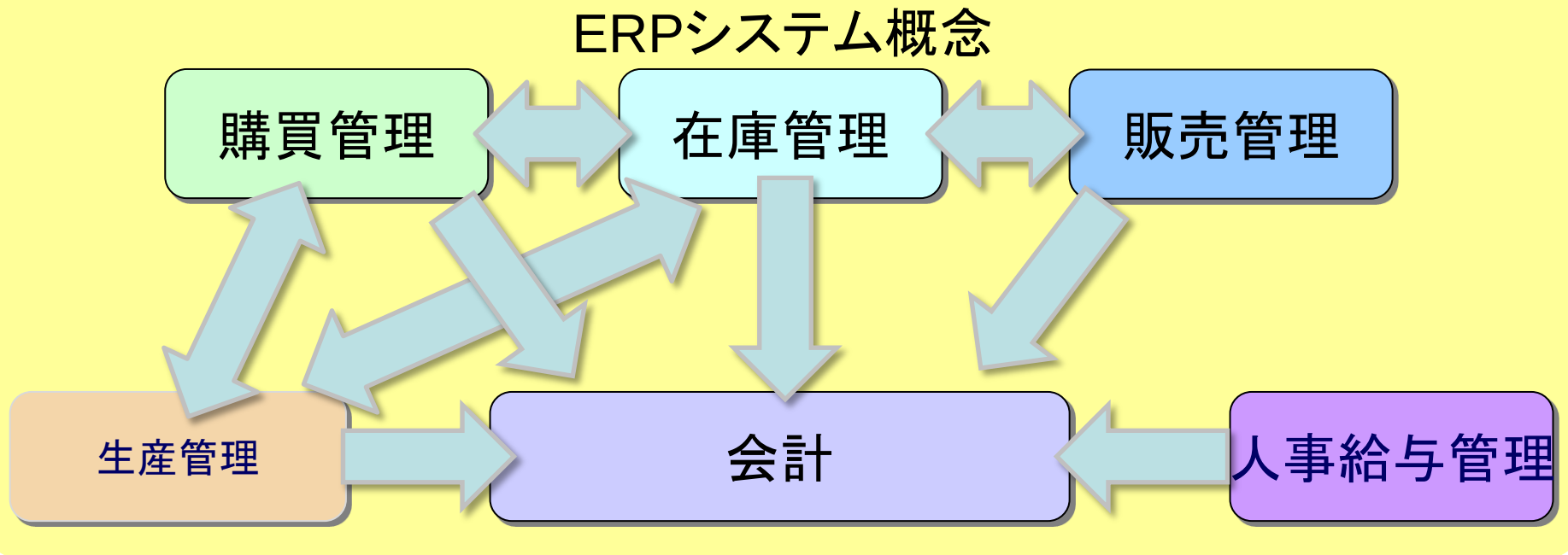
これまでは、会計の理論的な事を中心に学んできましたが、ここではiDempiereを使用して、実践的な感覚を体感してもらう事を目的としています。



iDempiere
Open Source ERP System

ERPとは

- ERPシステムとは企業の基幹業務と言われる業務を1つのシステムとして統合しているシステムです。



● ERPシステムの利点

- リアルタイムに企業の情報を管理する⇒リアルタイムに利益を算出する。
- 企業の業務データを一元管理する。
- 企業の業務情報を共有する。

iDempiere(アイデンピエレ)とは

無料で使用できるオープンソースのERP [GPL(General Public License)]

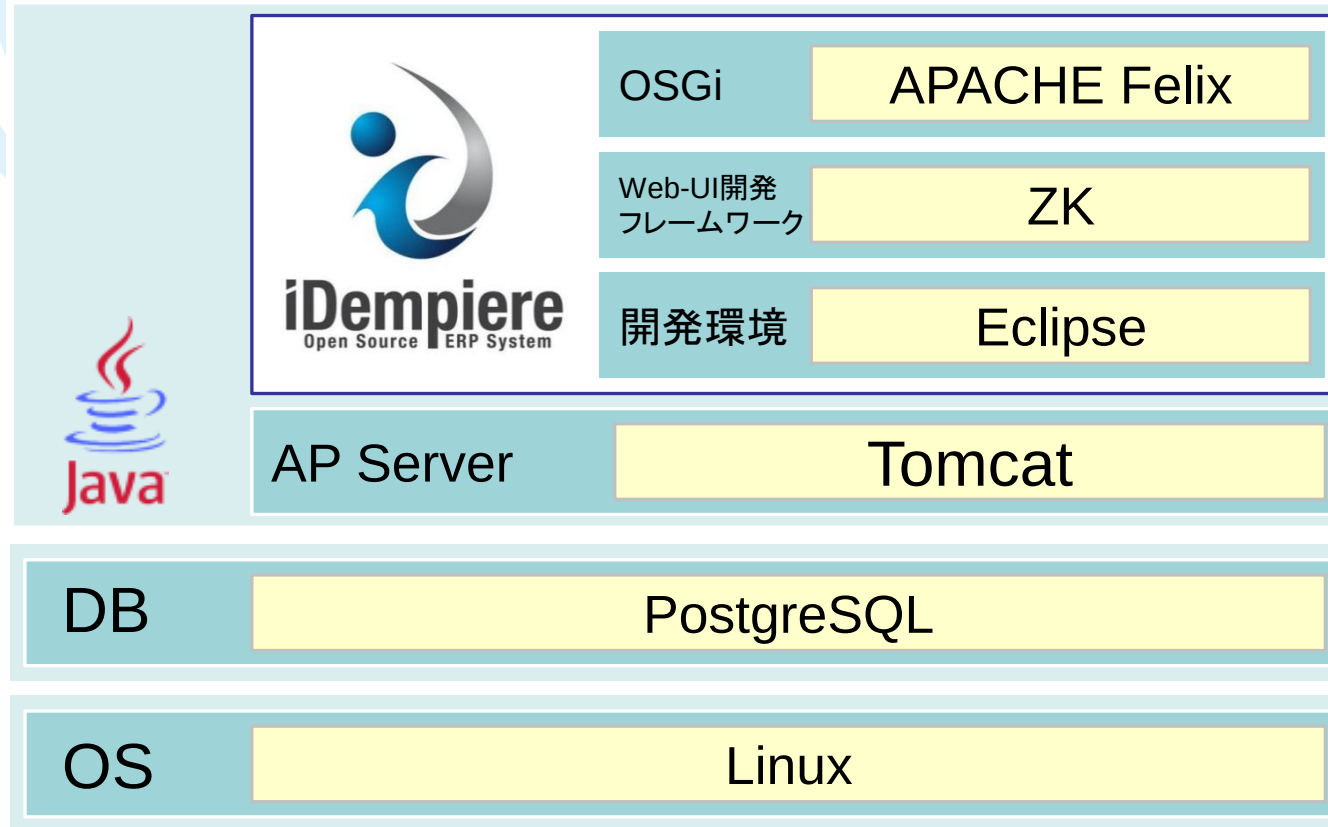
-  購買管理、在庫管理、販売管理、生産管理、会計管理、顧客管理など、一連の業務機能が既に実装されている、無料で使用できるオープンソースのERP。
-  中小企業・大企業の子会社などを主なターゲットとした、無料で使用できるオープンソースのERP。
-  1企業で導入できるのはもちろん、グループ企業(複数企業)にも導入できる、無料で使用できるオープンソースのERP。
-  世界中で使用されておりグローバル対応されている、無料で使用できるオープンソースのERP。
-  クラウド環境でも利用できる、無料で使用できるオープンソースのERP。
-  Compiere ⇒ ADempiere ⇒ iDempiere(OSGi + ADempiere)と発展している無料で使用できるオープンソースのERP。

業務アプリケーションの開発基盤

-  オープンソースとして世界中の人々が開発に参加するのは、有用性がありシステムアーキテクチャが優れている証拠。足りない機能があっても開発し易いシステムアーキテクチャになっているので比較的容易に開発できる。 (開発言語:Java / DB:Oracle、PostgreSQL)

iDempiereの動作環境

- iDempiereは、すべてオープンソースで構築できます。



PostgreSQL



オープンソースまるごと



オープンソースならOpenStandiaにお任せください!!

iDempiereの業務機能概要

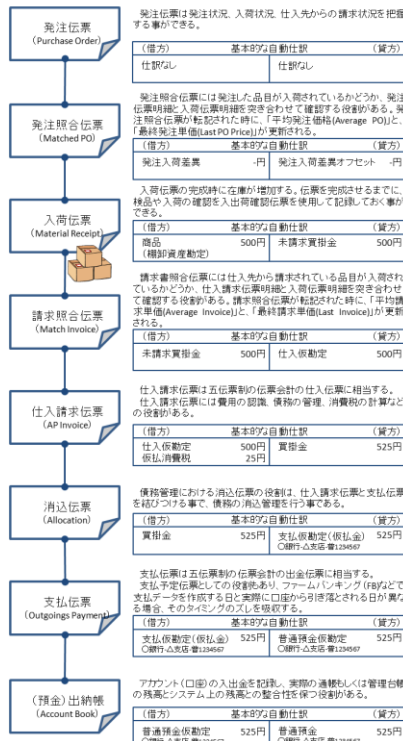


iDempiereの中心となる伝票と自動仕訳

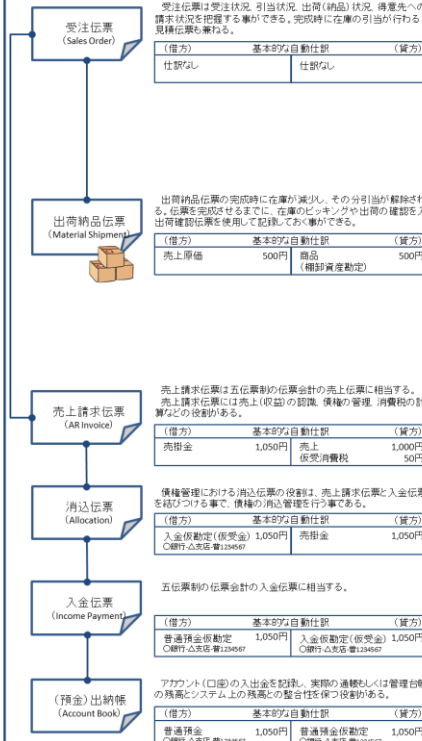
中心となる伝票の役割と伝票間の結びつき、基本的な自動仕訳

iDempiereは「伝票(Document)」の概念を使用して業務を管理するシステムである。iDempiereで使用する伝票の種類は数多く、それぞれに役割がある。そして伝票どうしが結びつき、取引の開始から終了までの一連の流れを順を追って確認できる事ができるようになっている。
 ここでは、iDempiereの中心となる伝票とその役割及び伝票どうしの基本的な結びつきを説明する。さらに、各伝票で自動で起票される基本的な仕訳についても説明する。

購買管理/債務管理



販売管理/債権管理



- 上記の購買管理/債務管理と販売管理/債権管理の伝票の結びつきは基本的なものである。業務フローによっては結びつきが異なる場合もある。
- 上記の基本的な自動仕訳として記載している仕訳例は、即売業を想定している。500円で仕入れた商品を1,000円で販売するシナリオをイメージし、消費税は5%としている。

在庫管理



↑は、在庫の増減に関わる伝票。



自動仕訳とは

業務が一人の人間で最初から最後まで完結する事は少なく、通常は複数の人が関わっています。その時の情報伝達手段としては、昔から伝票が使用されています。

iDempiereでも各業務間の情報の伝達に伝票(Document)という概念が使われており、業務によって色々な伝票があります。

iDempiereでは、伝票を登録し完成させる事により、伝票毎に適切な仕訳が自動で起票されるようになっていきます。

このように、仕訳を自ら入力しなくても、伝票のような仕訳のもとになるデータから、システムが自動で仕訳を作成する事を自動仕訳といいます。



iDempiereの自動仕訳については、補足資料を参照して下さい。

考えよう!! 売上計上のタイミング